

留学先国名 : アメリカ

留学先学校名 : University of North Carolina at Greensboro

留学期間 : 平成 28 年 8 月 1 日 ~ 平成 29 年 1 月 14 日

アメリカへの半年留学を経て、総合的に感じた異文化における学びは、日本にはないアメリカの考えが重要だということです。一番心に印象的に感じていることは、日本に比べて個人の考えを他人が嫌悪感を抱いたり、完全否定をする傾向はないということです。付け加えて、日本の考えは、「チャレンジしない、出る杭は打たれる、周りに合わせる」などというような傾向があるので、自分のしたいことを気持ちよくできないという異様な文化の一面があると感じるので、そのような傾向がないアメリカで過ごすのはとても新鮮でした。自分の好きなことを素直に言えるようになりましたし、それに対して誇りを持てるようになりました。アメリカの友達の方が、自分が好きでしていることに対してとても共感してくれるし、何より言葉でそれを伝えてくれます。そこで感じたのが、アメリカには日本に比べて、ドリームキラーが少ないということです。日本だと、親だったり先生だったり友達だったり、すべてではありませんが、自分の夢やしたいことに対して、反対することがあります。もちろんそれは、心配というところから来ている部分もありますが、それだと気持ちよくチャレンジをしていくことができません。結果、それがドリームキラーになると感じます。アメリカは私が言ったようなドリームキラーが少ないので、チャレンジするにはもってこいの環境だと感じました。

具体的な挑戦の例として、学校の行事のアジアンフェスティバルでソーラン節を有志として披露しました。リーダーとして中心に活動していました。最初は自分一人しかいなかったのですが、持ち前の巻き込み力を発揮し、メンバーを増やしていきました。他の日本人学生に最初声をかけました。ソーラン節は人数が多いほどいいものになるので、日本人以外にもメンバーとして募集しました。最終的に 20 人が集まり、当日は大成功に終わりました。日本人、アメリカ人、台湾人、韓国人の友達が増え、とても国際的なソーラン節ダンスグループになりました。終わってから、あなたが声をかけてくれたから参加したんだよと言ってくれ、とても嬉しく感じました。実は参加すると決めてから、本番まで一週間しかありませんでした。その短い期間の中で、全員に一から教えるのはとても大変でした。日本人以外のメンバーに振り付けを一から教えるのはとても新鮮で楽しかったです。一人一人に対して分かりやすく対応する難しさと、自分だけ分かっている前提で主観を押し付けることは間違いということにも気づかされました。しかし、熱意や思いを持って面と向かって接することで信頼を得ることが自分の強みだと感じました。また、目の前のことがいっぱいいっぱいになって、うまく効率よくできない弱点があることにも気づきました。

またセメスターが終了した後は、自分がつけた自信に対する力試しと度胸試しとして、アメリカ横断旅を決行しました。それだけではなく、旅という言葉は自分にとって大きなキーワードで、人が成長するきっかけの一つとして自分の中では認識しています。旅行ではなく旅です。アメリカを陸路で旅をする旅は、アメリカでできた友達と二人でした。僕が旅に求めるものは人との出会いです。ですので、旅先でより多くの人と出会える仕掛けを自ら作っていきました。その一つとしてフリーハグを訪れた場所でした。このフリーハグはその訪れた先々の場所の人たちであったり、雰囲気を知るにはとてもいい手段でした。フリーハグを通して現地の人と話す機会をたくさん得ることができ、お互いの考えをシェアしたり、とても学びのある時間だったと思います。何よりも、フリーハグで得ることができるハッピーな気持ちを提供することができ、同時に自分たちももらうことができました。このことは自分がとても重要なことだと思っていて、そこで生まれる陽の力は、その他陰の気持ちなどを打ち消すことができるからです。今悩んで前に進めなかったり、そのせいで人間関係やその他様々な身の回りに起こるマイナスなことを少なからずプラスの方向に運んでくれるからです。僕はこれを感じ取った時、これを伝染させていきたいと思いました。このプラスの部分をゼロから増やしていけるような人間でありたい、それを周りや他人に影響させられるような人でありたいと強く思いました。つまり、自分の大切にすべき価値観が一つできたということです。将来そのような、プラスを届けていける仕事をしたいと思いましたが、そんなコミュニティも作って、増やせる幅も作っていきたくとも思います。

そのためには日本の本来の文化や、あるべき姿を見直さないといけないと思いました。なぜなら、日本の本来持っている価値観はとてもプラスを生み出す力があるからです。日本の崇高な自然に対する感謝であったり、今を感謝して大事にして生きることです。この本来あるべき考えを持って、海外に発信して去る使命があるとも感じました。それはアメリカ滞在中にたくさんの人の価値観に触れたからです。僕は多くの価値観に感動し、学ぶものがありました。じゃあその時、日本人が他に影響を与えられる価値観、考え方って何なんだって考えた時に出てきたものです。なので、内側である日本というものをもっと多く学ぶ必要があると感じました。

この留学で手に入れた、圧倒的な自信をこれからのチャレンジに生かしていきたいです。また、周りに合わせるのではなくオリジナリティを追求するという精神で、これからの社会に貢献できる価値を生み出していきたいです。また、留学先でできた友達との縁やコミュニティを継続していき、将来へのコネクションにしていきたいです。仕事のきっかけになるかもしれないし、すでに将来一緒に何か面白いことをしようと約束したので、このご縁を続けていきたいと心から思いました。